

# ノウフク・アワード2024応募用紙(記入例)

## 【中間支援組織、JA 等】

1. 応募者の概要(必須)									
名称	(ふりがな)NPO ほうじん のうふくしゃかいふくしきょうぎかい NPO 法人ノウフク社会福祉協議会								
所在地	〒000-0000 〇〇県△△市								
担当者連絡先	<table border="1"> <tr> <td>部署・役職</td> <td>コーディネーター</td> <td>氏名</td> <td>〇〇 △△</td> </tr> <tr> <td>メール</td> <td>〇〇〇@△△△.com</td> <td>電話番号</td> <td>000-00-00000</td> </tr> </table>	部署・役職	コーディネーター	氏名	〇〇 △△	メール	〇〇〇@△△△.com	電話番号	000-00-00000
部署・役職	コーディネーター	氏名	〇〇 △△						
メール	〇〇〇@△△△.com	電話番号	000-00-00000						
取組主体 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 農林水産業経営体 <input type="checkbox"/> 農林水産業関係団体 <input checked="" type="checkbox"/> 一般社団法人 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 特例子会社 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 地域協議会 <input type="checkbox"/> 矯正施設 <input type="checkbox"/> 更生保護施設 <input type="checkbox"/> 高齢者施設 <input type="checkbox"/> その他( )								
設立年月日	(西暦) 2014年4月 (設立 10 年目)								
農福連携開始年月日	(西暦) 2016年9月 (開始 7 年目)								
取り組んでいる事業 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 農業( <input type="checkbox"/> 慣行農業 <input type="checkbox"/> 環境保全型農業 <input type="checkbox"/> 特別栽培農産物の栽培 <input type="checkbox"/> 有機農業(自然農法を含む)) <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産業 <input type="checkbox"/> 加工業 <input type="checkbox"/> スマート農業 <input type="checkbox"/> 輸出 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 A 型 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 B 型 <input type="checkbox"/> 就労移行支援 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> 放課後等デイサービス <input type="checkbox"/> 高齢者介護 <input checked="" type="checkbox"/> 中間支援 <input type="checkbox"/> ユニバーサル農園 <input type="checkbox"/> その他( )								
実施要領3(1)募集する取組のうち該当する取組 (最も力を入れている取組について1つ選択して下さい)	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦ <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ <input type="checkbox"/> ⑨ <input type="checkbox"/> ⑩ ※①農業経営体が障害者等を直接雇用している取組 ②社会福祉法人等が運営する障害福祉サービス事業所が自ら農業を行う取組、又は自ら生産した農産物等を使って加工食品の製造を行う取組 ③社会福祉法人等が農業法人を設立し、当該農業法人において障害者等が農業を行う取組 ④農業法人が障害福祉サービス事業所を設立し、当該事業所の障害者等がその農業法人の農場等で農業を行う取組 ⑤農業経営体と障害福祉サービス事業所が農作業に関する請負契約を締結して、障害者等が施設外就労で農作業等を行う取組 ⑥地域内又は近隣の市町村等の農業経営体や障害福祉サービス事業所と連携して、これらから農産物等を仕入れて、障害福祉サービス事業所等が加工食品の製造を行う取組 ⑦企業や協同組合などが自ら、又は特例子会社を設置して障害者等を雇用し、農業を行う取組 ⑧地域協議会、NPO法人、協同組合等による、地域の農福連携等の需給状況の把握や年間を通じた農作業の創出、マッチング、地域の農業の特性を踏まえた農作業の受委託のルールづくり、農福連携等の取組主体の拡大に向けた体験会の開催、人材育成等の役割を整理・周知等の取組 ⑨地方公共団体等が支援して農福連携を行っている取組 ⑩その他、地域における農福連携の定着に向けた取組、障害者等の農林水産分野での活躍を見据えた取組、ユニバーサル農園の取組、特別支援学校等教育機関での取組、高齢者施設、矯正施設や更生保護施設での取組、生活介護や放課後等デイサービスなど福の広がりに関する取組等、未来につながる取組								

生産作物 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 米・麦・大豆 <input checked="" type="checkbox"/> 野菜 <input checked="" type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 畜産 <input type="checkbox"/> その他( )
栽培形態 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 露地 <input type="checkbox"/> 施設園芸 <input type="checkbox"/> その他( )
農福連携の体系図	<pre> graph TD     NPO[NPO法人ノウフク社会福祉協議会] -- 作業請負 --&gt; Welfare[福祉サービス事業所]     NPO -- マッチング --&gt; Ag[Agriculture 農業経営体]     Ag -- 依頼 --&gt; NPO     Welfare &lt;--&gt;  農作業委託契約  Ag </pre>
	(該当する場合)※複数回答可 <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 施設外就労 <input type="checkbox"/> 農業参入
認定・取得済みの 認証等 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 認定農業者(認定新規就農者を含む) <input type="checkbox"/> 6次産業化認定事業者 <input checked="" type="checkbox"/> ノウフク JAS <input type="checkbox"/> 有機 JAS <input type="checkbox"/> GGAP <input checked="" type="checkbox"/> JGAP <input type="checkbox"/> その他の GAP <input type="checkbox"/> その他( )
受け入れている者 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 身体障害 <input checked="" type="checkbox"/> 精神障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> その他の障害 <input type="checkbox"/> 生活困窮者 <input checked="" type="checkbox"/> ひきこもりの状態にある者 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input checked="" type="checkbox"/> 犯罪をした者 <input type="checkbox"/> その他( )

**2. 取組の概略(必須)** 取組の特長などを要約して 60 文字程度で記入してください。

農業経営体と福祉事業所をマッチングし、作業内容と作業料金を調整することで、win-win の関係を構築し、障害者の就労確保と地域農業の維持に貢献

**3. 活動のきっかけ(必須)** ※200 文字程度で記入してください。

- ◆ 県内の就労継続支援 B 型事業所の工賃が全国平均より低く、県内の景気が低迷する中で、B 型事業所への下請け業務が減少し、障害者の就労が不安定であった。
- ◆ 一方、高齢化等により、地域農業を維持するための労働力の不足が課題となっていた。
- ◆ こうした中で、県から福祉サービス事業所と農業経営体の間に入り、マッチングを行ってもらえないかと打診されたことがきっかけで 2016 年からマッチング事業を開始した。

**4. 取組の具体的内容及び成果(効果)(必須)**

※審査基準である①人を耕す、②地域を耕す、③未来を耕すについて、活動内容、時期及びその成果(効果)をそれぞれ 600 文字以内で記入してください。※字数制限を著しく超過する場合は減点対象となります。あらかじめご了承ください。

※応募主体別の審査基準の評価ポイントについては以下をご確認ください。

- ・農業経営体が主体となっている取組の審査基準はこちら(URL: )
- ・福祉事業所等が主体となっている取組の審査基準はこちら(URL: )
- ・特例子会社や企業等が主体となっている取組の審査基準はこちら(URL: )
- ・JA、NPO 法人、地域協議会等中間支援組織が主体となっている取組の審査基準はこちら  
(URL: )
- ・その他(特別支援学校、高齢者介護、放課後等デイサービス等)の取組の審査基準はこちら  
(URL: )

① 人を耕す(例:①工賃や賃金の向上に対する取組、②障害者等が管理者や責任者などにステップアップしている事例、③農作業中等の安全管理や健康管理の取組、④一般就労につながった事例、⑤多様な人々が働くことができる職場環境の創出に関する取組、⑥多様な人々がお互いを認め合い、寄り添い、助け合おうとする環境の創出に関する取組等について記載してください)

◆ 作業単価は、関係者間で協議して作業内容ごとに基準単価を決め、作業内容ごとに作業単価表を作成して見える化を図っているほか、障害者を受け入れている農業経営体には作業単価は作業単価表をベースに県の最低賃金又は最低工賃以上になるように指導している。

- ◆ 障害者の能力や適性に応じた作業が行われるよう、双方から話を聞くとともに、障害者がスキルアップするように作業の見直しが定期的に行われるよう指導している。
- ◆ 安全対策マニュアルを作成し、障害者の種類ごとに特性を把握し、どのような点に注意するかを明示しているほか、月に1回は農業経営体を集めた会議を開催し、農作業で注意する点や問題点を話し合い、改善に努めている。
- ◆ 農業経営体には、トイレや休憩所の整備等を行うよう促し、農作業中の安全管理について当法人でマニュアルを作成し、双方に渡すことで、事故やトラブルの防止を図っている。
- ◆ 作業内容が評価され、農業経営体に雇用された障害者がこれまで2名いる。
- ◆ 農業経営体や農業関連団体の障害者に対する理解が深まり、お互いが寄り添い、助け合おうといった雰囲気地域に浸透してきており、施設外就労で障害者に農作業を委託する農業経営体は20経営体となっており、地域農業の維持に障害者が欠かせない存在となっている。
- ◆ 障害者だけでなく、ひきこもりや触法者の受け入れも開始され始めており、農業を通じて多様な人が活躍できる環境ができてきた。

② 地域を耕す(例:①農福連携を通じた収益性・生産性の向上、②地域の農地・伝統野菜・農業技術等の継承し、農林水産業の維持・発展に貢献する取組、③荒廃農地の再生等により、地域の農林水産業を支える取組、④地域の祭りやイベントへの参加等を通じた地域コミュニティの維持・発展に貢献する取組、⑤直売所やレストラン・カフェの開設、農作業体験や収穫体験等を通じて地域内外からの交流人口の増加につなげる取組、⑥地域の企業、JA、学校、行政等の異業種との連携による地域活性化の取組等について記載してください)

- ◆ 障害者は高齢化が進む地域にとって不可欠な労働力となっており、除草や収穫作業、出荷作業だけでなく、剪定作業など専門的な知識が必要な作業も担うようになってきたことから、農業経営体の中には労働力が確保できたことにより、生産性向上や収益向上につながり、規模拡大や付加価値の高い、手間がかかる農作物の生産や有機農業にチャレンジする農業経営体も出てきている。
- ◆ 障害者の適正に沿って農作業の内容を見直す農業経営体も現れ、農業経営の効率化につながっている。
- ◆ 高齢化の進展や慢性的な労働力不足に悩み、経営の縮小などを行ってきた農業経営体にとって、障害者は地域農業を支える貴重な労働力となっており、地域農業の維持に大きく貢献している。
- ◆ 福祉サービス事業所に農作業を委託する農業経営体は取組開始から4倍以上増え、委託面積も12倍に増加した。
- ◆ 農作業に障害者が携わることで、地域における障害者に対する理解が深まったことで、産直祭りや収穫祭などのイベントにも福祉サービス事業所が参加するようになるなど、地域内で交流が盛んになっている。
- ◆ 県内の特別支援学校に農業体験などを受入れられる農業経営体を紹介するなど、マッチング以外にも地域の連携が進む取組を推進している。
- ◆ マッチングがきっかけで、農業経営体、JA、福祉サービス事業所、特別支援学校などからなる協議会を発足し、農福連携の推進に取り組んでいる。

③ 未来を耕す(例:①先進性・独自性・話題性のある取組、②これから農福連携に取り組む団体等の参考となる取組であり、全国への波及効果が期待できる取組、③持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献する取組、④幅広い分野・地域とのつながりを生むことで、新しい農福連携の形が形成されている取組、⑤ノウフク JAS や GAP 等の認証取得や6次産業化などを通じて、生産物の付加価値向上に関する取組等について記載してください)

- ◆ 作業内容ごとに作業単価表を設けることで農業経営体も福祉サービス事業所も安心して農作業に従事できることから、こうした取組は地域で農福連携を推進する上での先進事例となっている。
- ◆ マッチングの取組を通じて農業者の収益向上や経営の安定、障害者の工賃向上といった好循環が生まれ、地域農業の維持や農業経営の安定化につながっていることが、テレビや新聞で取り上げられることが多くなり、県内はもちろんのこと県外からの行政関係者や JA 等の視察が増えるとともに、県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として招かれる機会も増加している。
- ◆ 農福連携を始めたいと考えている地域外の団体からもアドバイスを求められる機会が増え、実際に地域に出向い指導等を行う機会も増え、他県にもこうした農福連携の取組が広がっている。
- ◆ 地域で障害者が活躍する姿は、農業経営体以外の一般の方にも好影響を与えており、障害者が地域で生きていく上で好影響を与えており、持続可能な共生社会の実現に貢献している。

- ◆農作業を福祉サービス事業所に委託し、労働力不足が解消したことで、農地面積の拡大や高収益作物に転換した農業経営体や、有機農業に取り組む農業経営体やノウフク JAS 認証を取得した農業経営体も現れている。
- ◆また、規格外の農産物を仕入れて農産物加工に取り組む福祉サービス事業所も現れ、地域内で障害者と農業との win-win の関係が構築されている好事例となっている。

**5. 活動実績(必須)** ※「項目」は、①農地面積、②荒廃農地の解消、③売上高、④障害者等 1 名あたりの月平均工賃・月平均賃金、福祉事業所等への請負報酬の支払額⑤農作業に関わる障害者等の数、⑥交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。特に①～⑤の項目について、該当する場合は必ず記入してください。

項目	単位	取組当初	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 (見込み)
作業請負面積	a	50	80	100	200	450	600	600
特記事項(任意): 作業請負面積は取組当初から約 12 倍に増加								
参加農業経営体数	戸	5	10	10	15	18	22	22
特記事項(任意): 参加福祉事業所数は取組当初から約 4.5 倍に増加								
参加福祉事業所		2	4	5	6	8	8	8
特記事項(任意): 参加福祉サービス事業所は取組当初から 4 倍に増加								
農作業に関わる障害者数	人	10	25	25	30	40	45	45
特記事項(任意): 農作業に関わる障害者数は取組当初から 4.5 に増加								
交流人口	人	100	100	500	1,000	1,000	1,000	1,200
特記事項(任意): 農作業等を通じて交流した人口は12倍に増加								

※COVID-19 を原因として減少または減少となる見込みである場合は、実績値に「※」を記入してください。また、COVID-19 関連で実績に影響がある場合は、「4. 取組の具体的内容及び成果(効果)」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

**6. 活動の主な変遷(必須)** ※活動の主な変遷について記入してください。

取組当初	2019年	2020年	2010年	2022年	2023年	2024年 (見込み)
地域で協議し、当法人が中間支援団体となってマッチング開始	作業単価表を整備し、福祉サイド、農業サイド双方に見える化を実施	取組開始時から取組件数は大幅に増加	福祉事業所が産直祭りや収穫祭などのイベントに参加	農福連携に取り組んだことを機に2つの農業経営体がノウフク JAS を取得	一部の農業経営体で県内の特別支援学校等から農業体験等の受け入れを開始	引き続き、農福連携に取り組む農業経営体や福祉事業所の拡大を図る

**7. 今後の展開方向(必須)** ※200 字程度で箇条書きにて記入してください。

- ◆農福連携の取組は、徐々に広がってきているものの、周年作業の確保のため、更に取り組主体を増やすとともに県内全域に拡大していくことが重要であり、県や JA など関係機関との連携を密にしながら取組の拡大を図る。
- ◆農福連携で生産された農産物を販売する直売所を新設し、農福連携の普及啓発を図る予定である。
- ◆農福連携の取組について、県内だけでなく、県外の流通業者や外食企業にも PR し、販路の拡大を図ると共に、ノウフク JAS やGAPの取得を推進しており、これまで2つの農業経営体がノウフク JAS を、1つの農業経営体がJGAPを取得。

**8. 取組内容がわかる写真等(必須)**

※写真、図表等を貼付し、20 文字程度で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。  
※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5MB 以下となるようにしてください。


**9. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)**

表彰名等(受賞年度)	主催者

**10. 活動に関する PR・エピソード(自由記入、写真、PR動画<sup>④</sup>等添付可)(任意)**

※200 字程度で記入してください。

この欄への記載は任意ですが、取組を行う中で、上記で記載した内容以外で、これだけは PR しておきたいことや、エピソードとして、取組にあたって苦勞されたこと、取組を進める中で印象的な出来事、取組の中での生じた変化や新たな発見などがあれば記載してください。

- 
- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
  - ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフク WEB)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめご了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
  - ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。
  - ④ 「10. 取組に関するPR・エピソード」にPR動画を添付する場合は、動画共有サイト(YouTube / Vimeo 等)やクラウドストレージサービス(OneDrive / iCloud / Dropbox / Googleドライブ)等にアップロードの上、URLを記入してください。